

7 からくり人形

もうひとつ、この地方の伝統技術の「からくり人形」をしょうがいしましょう。からくり人形は、木でつくられた「動く人形」。200年前の愛知県で、すでにロボットがつけられていたなんて、びっくりだね！



からくり人形の種類

① 座敷からくり



ぜんまいで動く。お茶を運んで来て、お客さんが茶わんをとると止まる。のみ終わった茶わんをおくと、クルリと向きを変えて帰っていくんだ。



からくり人形の内部

② 山車からくり



祭りの山車にのせる。数人の人がいきを合わせ、糸を引っばったりしてあやつる。逆立ちしたり、文字を書いたり、変身したりするんだよ。



糸をいっしょうけんめい引っばってあやつっているよ。

山車の内部

愛知県は山車からくりがさかん！

愛知県は、全国に残っている山車からくりの70%が集中していて、山車からくりがもっともさかんなところ。ぜひ、みんなも県内各地で行われる山車祭りで、からくり人形が活やくするところを見てみよう！



山車

からくり人形がさかんになったわけ

祭りが大好きな尾張7代目藩主・徳川宗春が京都からよんだ人形師・玉屋庄兵衛たちの技術と西洋から伝わった時計技術とが合わさって、たくみなしかけのからくり人形がさかんにつくられました。西洋からの文化を生かして、新しい日本の文化をつくりだしたなんてすごいね。



日本でつくられた「和時計」
大谷市教育委員会蔵

からくり人形から工業へ

からくり人形の機械技術は、いまの工業へとつながっています。



からくり人形



せんい機械

自動車



同じ部品といっても、自動車はなんと3万点もあって、部品をつくるたくさんの工場が助け合ってつくっているそうじゃ。